自證院注 上

へ.4
4274
2-1

4274
2-1

去水五味均平蔵

天下のどうかてなりとのこの志のうるわしき代
をいまはかりとせあるわるまやあるわぬうんとろの川
乃こと紙をそ結ぶもろなる紀姫のまくも愛
し給へる井にはまたまとうとをうのあり
つかのかさしまあひうさのりとのもとをお結
あるしるるあるあくこと乃もとるうや世ふさみうら姫
人くとうこうこと紀をいかしまも富士乃ものうう
美いさわひを海るひまうかうこと乃みうさんをの
こをうひうをまたこと乃五井こう結ちもなかいは
しへこ海よをうとみうとうとうと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪乃うちひも夕くれ神のこゝろ乃あらしを代りて
波こゝ迄ぬおそ迄さをみちもる代のうひあさ
てゆうはれ海それこゝもあらはとうんそもなく
ゆゝしく迄ぬ神てやもうの乃ゆめの世をおろ
こゝに春乃うゝよあゝしの風いかるうんとゆ
う〻歌のこゝろを海乃さゝうのまわひま
こゝ乃ちふこゝろあちの初る夕くれ迄乃多をあそ
迄なるに志かこゝろにこゝの面ゝ登まて
を春ひのこゝ迄ぬあちをる式家去乃こゝろ
乃望よこゝんくなこゝおろまを海こゝに
ふ志こゝ人ふさ海こゝろとこ乃初うハい海迄もわ

海のこゝふよ仏をうしあゝ歌こゝのこゝ世りへともこゝ
神ゝ乃思初てなるこゝひくまさこゝあゝうれとの
こゝ海こゝろこゝの井まよこゝうゝ海あゝ式と
望ゝこゝ世海ひこゝ時代不同乃多あを世よいまき
世海こゝ志あれこゝつゝのこゝうひこゝひこゝふ
こゝこゝ地こゝふこゝあゝひこゝ迄こゝまわいとん海こゝを
こゝひこゝ人乃ゆめよこゝうこゝ乃ゆこゝこゝのこゝ
あゝめこゝれこゝこゝ式こゝうこゝ凡てゆこゝんこゝく
海ゝ海こゝとこゝうこゝそうこゝひこゝこゝをよこゝ式こゝ
こゝんまこゝこゝみこゝこゝもひこゝこゝ分こゝをあこゝをこゝうこゝとゝひ
こゝこゝ海こゝの海こゝめこゝくこゝ海ひあこゝ世こゝこゝる

宮内省図書寮

自讃寄註上

太上天皇

さくらさくやまのはるかぜ
なつくしの月も
春の日の
なつかしの
小倉山
うもれ
おもかげ
なつくしい

とうくうくんを川ぐくこと仕ら人へなるゆゑ
乗ぞうてをよもの乃おとゝふ仕いさをゆゑ
かのうくを妹のまひなくまと
山あさをなる仕くこと乃ふ雪をゝえゝ紀もやゝ
あゝ仕ゝを秋のまゝひなゝ神とものおゝふゝさハ
神よハう毎うゝもをゝさゝゝたゝゝとゝひてゆゝ
ゝゆ川越をおゝろぶなる者くゝう也
たゝひ出るゝ行わゝくゝを乃ゆゝ
むをゝもうゝ神ゝ見れゝゝよ
むせゝゝゝとゝゝへさゝゝゝゝゝ神もかゝゝ
ゆゝ川越ゝ仕ゝ歳ゝ神ゝ歳ゝ
来ゝ紀乃ゝ出ゝうゝをゝひ出ゝるゝゝゝゝ乃
ゝゝゝをゝくゝゝゝ仕ゝ遠ゝゝ神ゝ
ゝゝひいゝる行わゝくゝ妹ゝとゝくゝうゝよゝゝゝ
ゝゝゆゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
な紀人乃かゝくゝ来くゝもやゝほゝくん
神ゝ亀のゝゝゆめよゝゝゝ乃ゝ神と
ゝ神ハ亀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝめゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
やゝくゝんをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
も乃ゝゝゝ乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

かるもの乃いとゝ所なし

みるまゝに小山ゝ乃ゝ色まさるなり

ゝゝもいまや春さむなるらん

ゝ春ゝ立乃ゝ雪ゝ乃ゝ消ゝ残ゝ雪ゝ乃ゝ消ゝ残ゝ雪ゝ乃ゝ消ゝ残

なくるのみの代くん位ゆるゆるあくを大そうよ繁る
とそそ乃奥ゆもなくさこと紙ん心とおひあてゝゆゆ
せんくゆあくんと心よちくくりなりゆゆるくん
を思ふとそくくふあゆゆんちくそくゆゆと
ゆ乃おなくくゆゆ月日をうをよとハ大事といる
くはのえんなゆゆ乃ゆゆゆゆ形ゆゆる
くゆめくゆ神ゆ乃山くくも業えく

特山亀のくくよいてむ月う業

ひくく神ゆ山といてるくゆ伊勢内宮乃日の山ち
んを時代をゆよくくわて人乃くゆくくこゆよ
まくゆひ蛇くくなる神冥まゆの光をうくをとゆ

なけくおほうてひ世乃まくひのゆゆ業えて月
日の光りを待おんをくゆゆのめくゆとのゆんゆゆ
あくゆよおるくくゆ神くひくくゆくくゆ天下をく
ををえゆゆ神ハ神をゆと角をゆるれくゆゆゆ也
乃ゆゆなり神代のをゆよくくゆ乃をよくくゆ乃ゆ
雛をを神代乃をくくめゆくくゆ

くゆくゆゆくくゆ世乃をくめちくくゆ

そ乃くくゆくゆ神ゆゆくゆ

乃ゆくくくくを久くゆ業といるくゆなくまくよ乃
くくめをゆんむゆ天皇のゆくゆゆゆゆゆ
あくゆおほつくくゆ世いゆ是よくゆ也のゆ代業

[illegible]

時代とぞいはめ切りもなきいとゝ代々乃勅撰よみ
侍るとき為うのうの[illegible]や祢やうきんとゝ水世の
めくらきよりあそなる紅葉の心ひろへ
あるは須よ戒老乃たゝしめそれそくみ乃うすとを
ようよいのるれんあらとうん百を百代のうす

山寺乃月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あはれをしれるものこそ
なさけをしるとかくこそ
をしへなれ
乃ちをしへとなるまことの
乃ちをしへとなるこそ
いきてくるもあはれまことの
この世にてをしへ
うるはしきなるをしへ
義をもてこれをなすべし
うるはしの乃神のうしなる
あはれもてあるをしへ
うるはしの義をいくらみてをしへ

をしへをしるものあらぬ秋風
いかなるあはれをしへ
うるはしの乃をしへ
をしへ世にむかひ
をしへなるをいつ
ぬとはおもひもせよ
あくをあはれよの秋風
ある心なるをいと
乃をしへをいつ
あるをしへ
いのちをしへ
うるはしの神の
をしへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人を[illegible]の[illegible]せらやの[illegible]

あ[illegible]ひ[illegible]の[illegible]

こ[illegible]

[illegible]

[illegible]

めりて雲猛ちの動雲雲を巻氏て絶てるうち
ゐ乃りとの的祈出ゐうて梅てくのみるれさ
りまうくそくしてそうんとうをうへうを
そ稜ちりゆさうへ祈へりを巻れよ動家れ家
第大僧正無漏

いはまくうあうくくくて月うくく
秋すちうくくも緑うくひしな
うう流いあくくうちを
あうう流りの雲動ちる乃一流とくく雲雲の流れあり月
祈ちまにちうを雲くくうくうちんちうの大り
ひ流りくるなりあくくう親や流ゐ祈れりくひ乃

人や流ゐこまのをうくくう人やひ雲乃人うくく流
の雲なりあくくうあくい流まくうみとや
本乃祈ちりる雲ひうう見神の雲を
ありうくて稜くあくくれ
うう乃うう流くくかの雲とくくくも乃
の見くくうくくの神乃りちをくありうを
ちくて稜くうくくう見てくる流ちり
東さゆる山田のく流乃むくくな
うう人のくくくう乃うくな
をくくうあをくひくくあうを稜りを祈りを稜る
なりうを乃うくを月をてを稜るへき

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人をあらそへまし山おろしのうち吹

うんぬうちうしはらうまや

又あらそはぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

くのうちうちうちうちうちうちうちうちうち

山さかうちうちうちうちうちうちうちうち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるかなきかのうすもの
梅の花不梅の花のうすもの

むめの花

そのかをぬすむ神ぞ
そのかをぬすむ神ぞ
うぐひすの月のとぐちや
人の恋を梅はこの梅よりかをるまれ
思ひ出をたづねてかをる人ぞ
月のまえかくれてかをる梅のすがた
梅のかをぬすむ神ぞ
あくがれ出る心ぞ

あるかなきかのうすもの神の衣
野をうつのうす衣ぬぎすてうち
ほうたまいうふ乃ちんとうくる姿のゆへはひさかたの衣ぬる
うくさのやそのゆへはひさかたの衣ぬる
うくさ衣あさうもの衣をもつて神の衣時ハ
らのうをうる秋のひとなれ衣のひとなれや
ある袖はこの乃あるかを秋をあはれをまなわさくも
みなとにうつうる秋ちち
かをぬとをとれのうをひとる秋られて
秋をををうるかなるかとのうをとのうち
ふうをあうをうるかなるものうるをあるをうるをの

みくまのゝうらなんて一かの島あるへきこと
なれはこゝろのうちにおもひ出てみくまのゝ
あるかたよりの聖をなのりのれはつねのもうこ
とをはしめとしてやうやうに花の人心をもらく
さの花をもてあそぶなるこのゝうちにつ月
のうらうらかすんハ海ゝとまてゝ波のうへ
しらなみ寄てきなんとかるゝ月そけきるゝ
ゆゑなるへしとあるへしと
月をもてあそぶ
なをもしらてそ乃ゝうちうらをく
ゆゑ歌の月はうをそやけき
ゝうらはあしなりう

あるかたよりの人を待ぬ独よ
ぬ袖をれはうちうらをく孫ぬ
みくもかくのゝくあるへし
聖屋よりく嶽のなうりをゝのゝれぬ
ゆゝなる秋乃ゝ月をもてあそ
こゝ乃ゝをもれをもてゝ
なる秋のゝうをもて聖へのうちよ花のあく
むしゝ乃ゝ海ゝくふう波のうりつうよ
みるゝ生ゝそゝゝ乃ゝなる花ゝ
ゝゝ秋かゝゝと乃ゝ月ハゝゝゝ
をの秋乃孫ゝあるゝひゝまゝの月乃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あとをたれ給ふ事と申ものそうまつりしや

むすびおきしくさの乃いのちの乃あるよ　　後成卿

なくさるるうへの山ほとゝぎす

このうちの乃ふかきうらのいろのいのちさへあるものなれば

うゑおくさくらの乃あるやうにおもひのこと

かなさまく唐山のむすび給ふ事をあまくこそ

海のそこのうひ物をもとめ給ふ事をもこそ

ひろうものとおもふなとをゆるしたまふ事

今ことりのもとめ給ふ事をもこそ

生物をこころにかけたまふ事をもこそ

みあるなれは自讃の時ふる八十さいや接ふ

てゝ入乃とゝいふ歌を後撰集に入乃ゝ

ゆ世八まく古と集と碁後よ仏をあるなれよ

世ものあり小屋さんさうみくらんまやう

のうさ衆んちやうの乃と唐山乃あの歌さう

ん乃うち山ねをるまんゝるゝ乃ゝもれくよ

をの川をうるをゆをくるをふをくをあり

ほとゝぎすよりもをゝ様ゝにいひくまり

雲井乃月のうゝ様ありせを

あれをうみのほくにほつちうなりてゝ乃川

ねあそれなるうゝ様の様ゝあやをる乃月を大門

乃月なりけるをもてはいとやゝへくん
あまたまくれ秋乃月もてはやされる
まして
海ゝく来えんをんとをう云ひるるくんゞまま
のうゝへくゝ行くゝ二条流乃うゝと見まハ
し行ふよ大くんをくゝ
をくゝひくゝ
かくゝそゝ行くゝ
さ海ゝ行をうゝ
行くゝ神ひゝの
ゝ井の月をくゝ

こゝのうゝなるゝの
のゝ井をゝひてゝめくゝ
志あをくゝ今ゝおくゝ秋山の
くゝ
くゝ行くゝ
くゝ
くゝ
くゝ
くゝ
くゝ
くゝ
くゝ
くゝ
くゝ

いつくしんでうさをあらしふくこゝろのうみちのゆく
ゑさをもめぬよゝあるうまへるをとゝ生いうあをせ
くゝりをあられぬくゝひたくをこゝ作るへきすつ
一
他人のおろ神ろかみさくろ此極
うちたろ姫よもちよゝ屋ぬへ
こゝ乃方をぬ生くかをと山海のさくゝ丸家のまた
といてうこうゝ紙ゝ生ろ
おろ乃ほろこゝくゝとをめつろふとろ作の
紙くゝ作ろうや他家のひさゝさろのえいよく
あろゝれ作ろな紙くゝひろくゝて
ゐにゝ人あゝ史くゝ屋よ宿ろうて

まゝ海よ神乃志かゝろ那
すろよゝろふいゝ生も海ろ人さうや長ハあ
史といゝんいくゝ海といゝやゝ海よ神の
志海ゝろふゝ乱上のろのみくハあゝて志
ろをあゝ神とおゝふゝさ乃ろくゝたわゝろ
ろなふゝの素敵ゝ小屋のあゝ史よやゝろゝ
せんゝ海おりゝ屋ろへ
ゐちろへつゝ史ゝ考くゝんゝ松ゝ屋や
ゝまのいゝまやゝこよあゝゝゝ
ゝ海ハあゝゝに作ろ他この生ろゝ史ゝさてこ
むと作ろゝ史ゝゝゝ人よちゝろ屋うよいゝろ

そんをもつぶ角くやくあしをもて海の山をのあそ
袖ふりそ思さしたるみもるを思ふあまりよりはさしたる水
みもさそてこむといへるよりて流よあらしをみるを兵
衛殿うきをあらあとをみはれとをくるをうしあらて
をのハしとをもをはをくいへをもをて流よなりあらか
つをされをとをくあとりをる紀のをいハ水あらをと
をのこををるをををかのくを世ーをををやををを
うか角ををうを角うよをんーをおり流をを
かんをんなり天性おり流を角をあるを方も
こをくをくいへををのをんをーはをとよをんへ
流をりまは角を延をををををををふーをををの世乃

あををををををかを字あをををいはるをををくを
くを流を抜をくををりをを川ををををよをを
をををををよををのくをを乃をりををを
この乃をくををよをなをかをををををひをををををををを人
をを塔をををくをーをををのををを乃ををくをる乃を
よををを作ををめををくをりをををかくのをを
のをのををををくををををを人をハをを角ををををん
をををを乃ををの角をのよををはをををををををを
く角をををををのくをとをりをのをををて角をを作を
をや後成は乃角をハをあをををりよをを理ををはををん

とせさまとるにうくうちのめくらまあくれ
えうひめうなわうくくをうとへさのかくて
望大后宮大夫後妃世

むめの花あるぬるくもむしーあく
おるーかくてミの長れ秋の月
あく海をなかるもむしーまかくる世乃中
るまとれのよ海ひ春乃久のこ年くーのくる
乃ニはるまちくるくるといてこ海よや
あくむよひ秋おのくの板よあしへの猿乃と云
後妃ゆ載樂と撰しくる河のてのうひおさう
入くりあしー色くを乃のるりさがよありさう乃

猿乃とや人もあり通具書なり
おくう家乃くまめ多月て左とりくる
くくやむくくの種表ゆくくり
あ雑くあ垂漆設乃意十ゆくの高乃くくれ
恋乃ふくりれもう垂のくまめくれとハまれくる
ミ人の画新月よ立くひく書の種よやくくりや
あくにくる川春のまくくあくまひぬ
くくくくなりやくこの山る世
ひ高くくく雑くくる家ゆくよくてあくにくる
霧のまくくくなり紀角う新垂くくくりや作ん
あくる後よまくくくさんとくくくよめくる高やる給

乃山のあらしは猶ひしきしのぶらん
はつ〻色の秋乃夕まぐれすさまじ
月はあらし嵐神乃川松かれ
心をこの海乃月あさむひてんををくゆわハ
まなるこころいすゝへるひ〻松とりはるのとひ
ことまくさひまくさ松ふ〻松をるこのつ
松ゆうの松とりはるをへて月はるのうへハ
松〻むとくあるこるはもこゝ
多秋めるゆ神ふあさをこゝみく
ひかの夕みかけあくおる遠〻くんえこゝ遠はゆ
むとくゝ月ハとまるまゝ松とやみかをを松はるむとを

多ゝこゝ雲ハ神はのをこゝ海ゝひ
うゝゝまくく松く暗への秋ふ
多もあくてやといひ〻くくゝや
ゆりはるゝとをゝ遠を神ふ秋ゝをく
いひ〻こゝを松とせ〻はるよ
ひかの木ゝふゝ数えはゝをゝをれと松ゝを松ゝを
数ゝ遠をゝをゝをゝをみを遠はまのゝゝ
をを松はるまゝ秋乃ゝゝを
投衣のゝゝをあひつゝ海のゝゝへ数ゝ神
くゝれはゝをゝまゝ乃ゝ数乃ひゝこのゝち
ゝをの海を秋のゝゝへゝゝなを

去水五味均平蔵